

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和 8 年度 第 1 回益田市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和 8 年 9 月 29 日（火）午前 10 時 00 分～11 時 00 分
開催場所	市役所多目的棟会議室
出席者	審議会委員 出席 9 名 欠席 3 名 事務局 4 名
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	無
次 第	1. 福祉環境部長あいさつ 2. 議題 1 会長の選任について 議題 2 副会長の選任について 議題 3 益田市循環型社会形成推進地域計画について 3. その他 報告 1 次期処分場の進捗状況について
議題 1	会長の選任について ・事務局案を審議のうえ会長を選任。
議題 2	副会長の選任について ・事務局案を審議のうえ副会長を選任。
議題 3	益田市循環型社会形成推進地域計画について ○質疑応答
委 員	・計画の再生利用量の目標値について現状よりも少なくなっている理由は、目標値を達成しているということか。
市	・人口減少によりごみ排出量も減る予測の中でも、再生利用量については現状に近い数字で資源回収を行うことを想定した目標値となっている。
委 員	・総排出量に占める総資源化量の割合が 2 5 %となっているが、全国と比べるとどうなのか。
市	・全国の平均で行くと約 2 0 %くらいになる。人口が少なければリサイクル率があがる傾向がある。
委 員	・技術は進歩しており、リサイクル率も上げれるのでは。
市	・リサイクル率を上げる方法のひとつとして、分別品目を増やすことが考えらるが、この計画期間内で分別方法を変更する予定はない。 しかし、製品プラスチックの分別化については、今後出てくる可能性があり、費用的なことも関係することからバランスを考えながら検討する必要がある。
委 員	・容器包装プラスチックの回収について、よごれたプラスチックについては、燃やせるごみでも良いですよみたいな周知をしていただければ、分別しやすい。
市	・出荷後の容器包装プラスチックについて毎年品質検査を受けており、良い評価をいただいているため、新たな啓発については現時点では考えていない。

委 員	・他県での事例で、なんでも同じ袋にに入れて捨てていいところもあれば、日本一厳しい分別と言われるようなところでは、少し過ぎた経験があるのですが、大変でした。住民の負担とのバランスも考えられた中で出ている数値であると思った。
委 員	・工事費について、基本設計が終わって決まるのでは。
市	・現時点では、概算の事業費が入っている。大きく変わる場合は変更となる。
委 員	・生活環境影響調査について、どのような調査ですか。
市	・環境アセスメントという調査があるが、生活環境影響調査は廃棄物処理法に基づいて生活環境の調査を行うもの。中身は大気、粉塵、運搬車両の二酸化炭素や窒素酸化物、騒音振動、水質、地下水など。 こういった項目について調査を行い、処分場ができた後の影響を予測するものになる。
委 員	・少しずつ影響が出てくることについてはどうやって調査するのか。 住民に対しての健康調査などはしないのか。
市	・生活環境影響調査においては、影響が最大に出てくるところを予測するもの。 処分場ができたあとは、廃棄物処理法により水質モニタリング等していく。 現処分場においても、定期的に水質検査を実施しており、調査結果については、益田市公式ウェブサイトで公表し、年1回地元住民へ説明会を行っている。 健康診断のようなものは未実施。
委 員	・この地域計画は毎年更新をかけていくのか。
市	・例えば計画期間が延びるなど、大きな変更等があれば見直しをする。
委 員	・災害復旧の関係で、災害時の廃棄物仮置場について場所は指定なり決まっているのか。
市	・災害時の仮置場については、市として10か所程度候補地は選定しているが、正式に指定までは行っていない。土地管理者等との調整も必要となる。 災害廃棄物処理計画を改定する時には、仮置き場の指定について検討したい。
その他	報告1 次期処分場の進捗状況について －議事終了－